

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 多様なアプローチから 「学習」の根本を問う

『新 人が学ぶということ』

—— 認知学習論からの視点 ——

今井むつみ（環境情報学部教授）ほか著  
北樹出版／定価2730円



一口に「学習」といっても、たくさんの種類がある。学習するのが人間か動物かコンピュータか。人間でも、対象が幼児か大人か、あるいは単純な記憶か身体運動かなど、何がどんな学習をするのかで、研究の内容は大きく変わってくる。

本書では、認知科学の理論をベースに、「生きた知識の学習」という問題を多様なテーマからひも解いていく。母国語は自然に習得できるのに、なぜ大人になつて外国語を学ぶのが難しいのか、コンピュータと人間の知はどこが違うのかなど。ユニークなテーマからの考察は、誰にとっても重要な「学ぶということ」の本質をあらためて考えさせてくれるに違いない。

## 教職員執筆の最新刊

●吉田栄介（商学部教授）著

『原価企画能力のダイナミズム』中央経済社／3360円（2012年4月）

●佐々木孝浩（大学附属研究所斯道文庫教授）ほか編

『日本の書と紙―古筆手鑑「かたばみ帖」の世界』三弥井書店／2940円（2012年6月）

●岸由二（経済学部教授）著

『奇跡の自然―三浦半島小網代の谷を「流域思考」で守る』八坂書房／1680円（2012年6月）

●納富信留（文学部教授）著

『プラトン 理想国の現在』慶應義塾大学出版会／2940円（2012年7月）

●有末賢（法学部教授）著

『生活史宣言―ライフヒストリーの社会学―』慶應義塾大学出版会／4410円（2012年8月）

●松田隆美（文学部教授）編著

『貴重書の挿絵とパラテキスト』慶應義塾大学出版会／3150円（2012年9月）

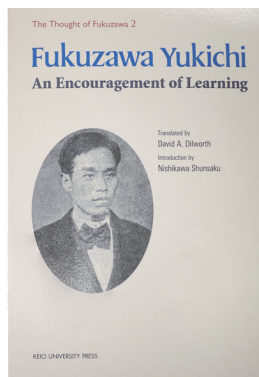
## 慶應義塾の1冊

『An Encouragement of Learning』

『学問のすゝめ』（英訳）

福澤諭吉著  
デヴィッド・A・ティルワース訳

慶應義塾大学出版会／3360円



英文による福澤諭吉著作集『The Thought of Fukuzawa Shiroz』の1冊目『An Outline of a Theory of Civilization（『文明論之概略』）』に続き、シリーズ2冊目となる本書は、『学問のすゝめ』の英訳版。近代思想に基づく学問との向き合い方がつづられた名著の英訳化は、欧米の人々が「近代」を客観化するのに寄与するという点で重要な意義がある。世界の人々と「近代」について議論を交わすため、ぜひ塾生諸君にも手にとってもらいたい。福澤先生の原文の『学問のすゝめ』と一緒に読み進めれば、表現の比較など楽しめるだろう。